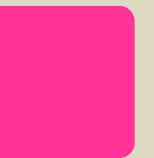


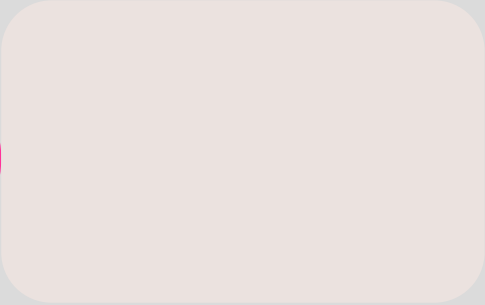
（資料の背景）

この資料は、当時、とある旧・東証一部上場企業で、本部長職に就いていた女性からの相談に対する回答として作られた資料です。

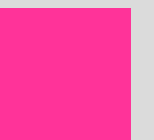
当時、彼女からいただいた相談の内容は、「部下に対してえこひいきをしてしまう自分が嫌だ」というものでした。

これは簡単に言えば、部下に対する「好き嫌い」の話だとも言えますので、「人が人と接するときになにをしているのか」を解説する機会になりました。



部下に好き嫌いを感じると
お悩みの  さんへ♪

そのお悩み、構造から解説します☆



世の中の構造のひとつとして

世の中の構造のひとつとして、

- ・人は必ず、自分以外の誰かのことを「引き下げる」
- ・人は必ず、自分以外の誰かのことを「悪く言う」

という構造があるようです。

「構造」が生まれる流れ

その構造が生まれる流れは次の通りです。

「構造」が生まれる流れ 1

1 .

まず人は、自分が「死刑確定の身」であると認識しています。

※ ちなみに、自分がなぜ死刑になるかの理由がわからないまま、「死刑が確定してること」だけが認識されています。

※ 「死刑」についてのお話は詳細を割愛していますので、別の機会にしているお話を参考にしてください。

「構造」が生まれる流れ 2

2.

自分がなぜ死刑になるかの理由がわからないまま、「死刑が確定している」ということはとてもおそろしいことなので、人はなんとかして死刑を免れようとします。

「構造」が生まれる流れ 3

3 .

一方で、世の中一般的には、
「優れている人」は罰を免れやすいという
認識があります。

ですので、死刑を免れたいと考えた人は、
自分が「優れた存在」として認識されるように
しようとします。

「構造」が生まれる流れ 4

4 .

自分が「優れた存在」として認識されたい
と思ったとき、人は誰かと自分を比較して、
「自分の方が優れた存在である」とアピール
しようとしがちです。

※この背景には、それがプラスの評価であれ、マイナスの評価であれ、
自分に対する評価が、自分と他人との比較の中で下されてきたという、
それぞれの人の中にある「子供のころからの経験」があります。

「構造」が生まれる流れ 5

5 .

そして人が「優れた存在」として認識されるようになろうとする理由は、「なんとかして、死刑を免れたい」という想いでした。

ですので、人は、自分に対する死刑が執行される前に、できるだけ早く、「自分が優れた存在」であることをアピールしたいと考えます。

「構造」が生まれる流れ 6

6.

自分が「優れた存在」であることを
できるだけ早くアピールするために。

人は、とにかく誰でもいいから、
「自分よりも価値がない存在」として扱える
対象を見つけようとしています。

「構造」が生まれる流れ 7

7.

とはいえ人は、自分に対する「死刑」が確定しているという事実によって、自分のことを「優れた存在」とは思えない状況にあります。

なので、「自分よりも価値がない存在」として扱える対象を見つけることはむずかしい。

「構造」が生まれる流れ 7（続き）

7（続き）.

そこで、「自分よりも価値がない存在」として扱える対象を見つけるのではなく、
「自分よりも価値がない存在」として扱える対象を作り出そうとします。

8.

「自分よりも価値がない存在」として扱える対象を作り出すためには、自分のまわりにいる人たちの価値を引き下げればいい。

そうすれば、相対的に自分の価値を引き上げることができる。

「構造」が生まれる流れ 8（続き）

8（続き）.

このように考えた結果、人は、
自分のまわりにいる人たちに対して手当たり次第に、
その人たちのことを「引き下げる」、もしくは
「悪く言う」ということをしていくようになります。

そして「構造」が出来上がる

その結果、世の中には、

- ・人は必ず、自分以外の誰かのことを「引き下げる」
- ・人は必ず、自分以外の誰かのことを「悪く言う」

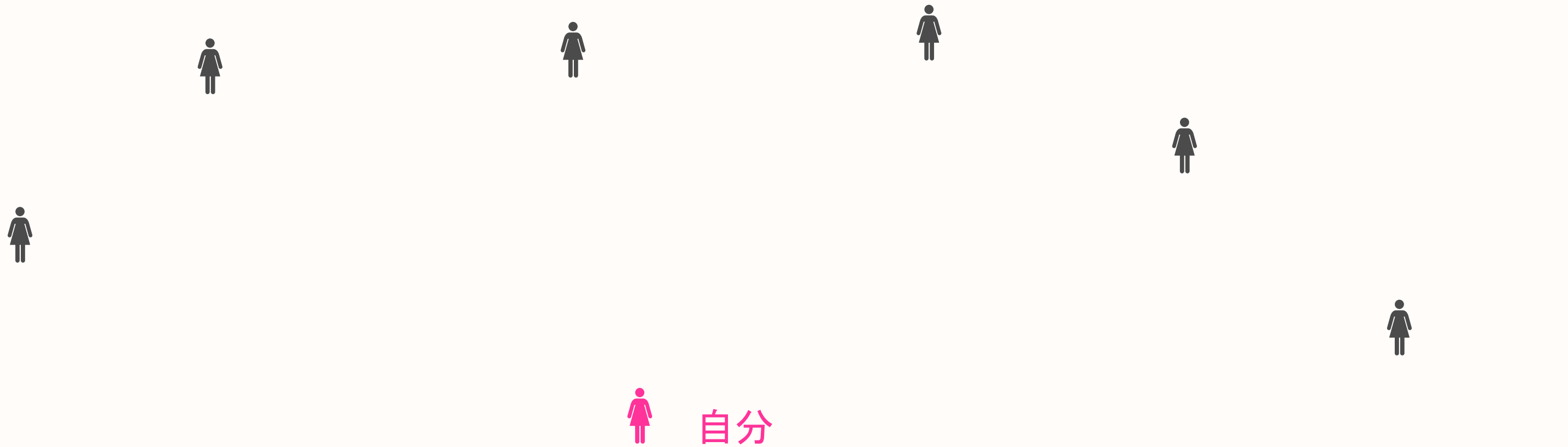
という構造が生まれています。

ここまでが、「基本の構造」です。

この「**基本の構造**」がどのような「**結果**」を生み出すのか。

次のページからは、この「**基本の構造**」から
生み出される「**結果**」を
図解していきます。

「構造」とその「結果」の図解 1

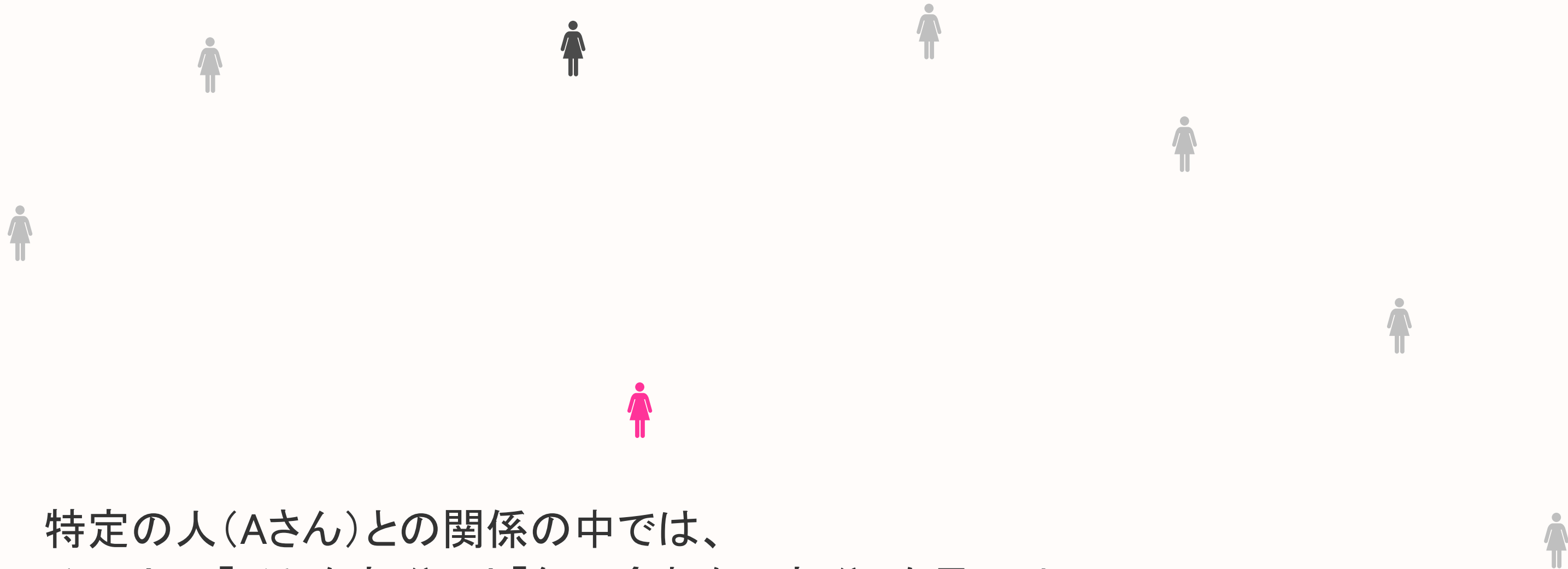


- ・引き下げることができるのであれば、誰でもいい。
- ・とにかく誰かのことを引き下げて、「自分よりも価値がない存在」にすることで、自分のことを「優れた存在」と認識してもらえようようにしたい。

その思いから、人は、自分のまわりにいる人たちそれぞれに対して、手当たり次第に、それぞれの人のことを引き下げようとしています。

「構造」とその「結果」の図解 2

特定の人（Aさん）



特定の人（Aさん）との関係の中では、
その人の「イヤな部分」や「気に食わない部分」を見つけ、
その人に対して「マイナスの評価」を下します。

「構造」とその「結果」の図解 3

特定の人（Aさん）



Aさんに対するマイナスの評価：
「Aさんはサイアクだ。なぜなら〇〇だから」



「構造」とその「結果」の図解 4

特定の人（Aさん）



Aさんに対するマイナスの評価：
「Aさんはサイアクだ。なぜなら〇〇だから」



その一方で、人は、自分が「イヤな部分」や「気に食わない部分」を見つけ、
「マイナスの評価」を下した相手に対して、

必ず、

「プラスの評価」を下すことになります。



「構造」とその「結果」の図解 5

特定の人（Aさん）



・ Aさんに対するマイナスの評価：
「Aさんはサイアクだ。なぜなら〇〇だから」



・ Aさんに対するプラスの評価：
「Aさんは素敵だ。なぜなら□□だから」



「構造」とその「結果」の図解 6

特定の人（Aさん）



- ・ Aさんに対するマイナスの評価：
「Aさんはサイアクだ。なぜなら〇〇だから」



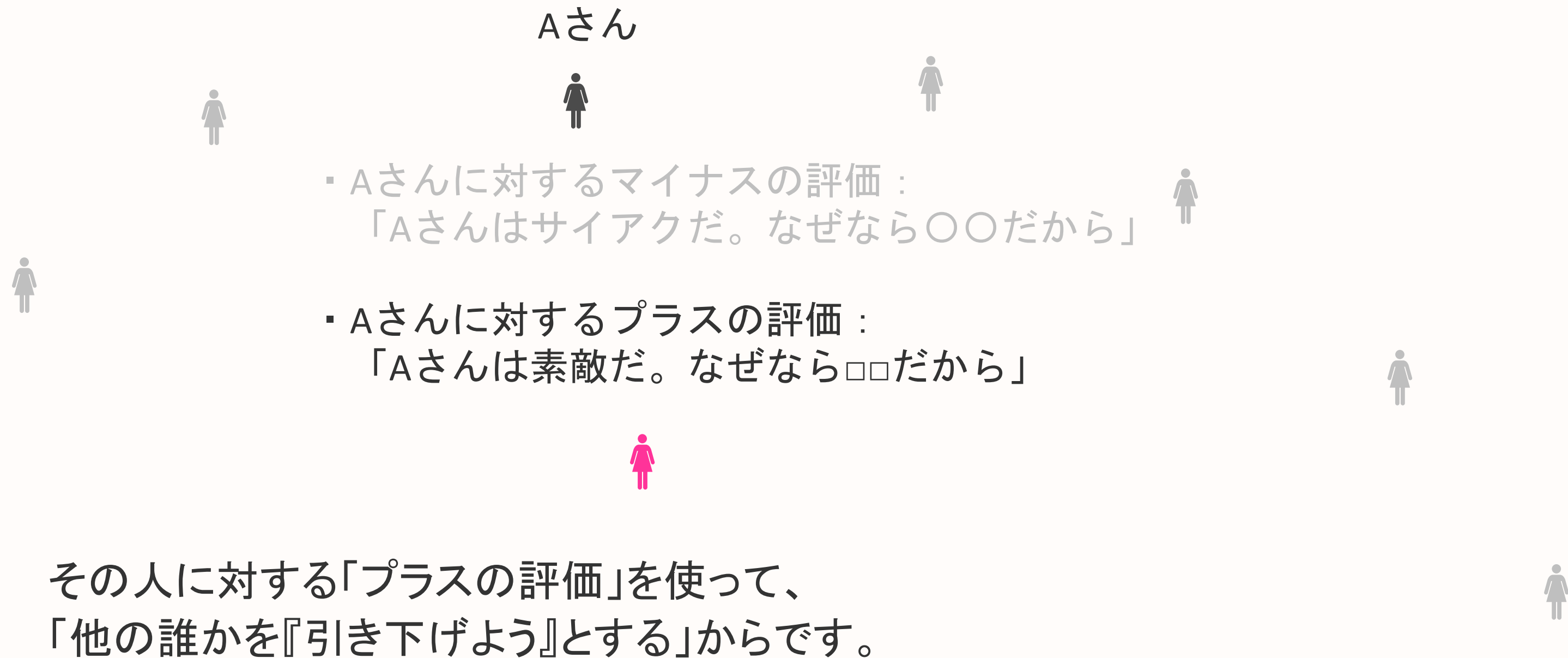
- ・ Aさんに対するプラスの評価：
「Aさんは素敵だ。なぜなら□□だから」



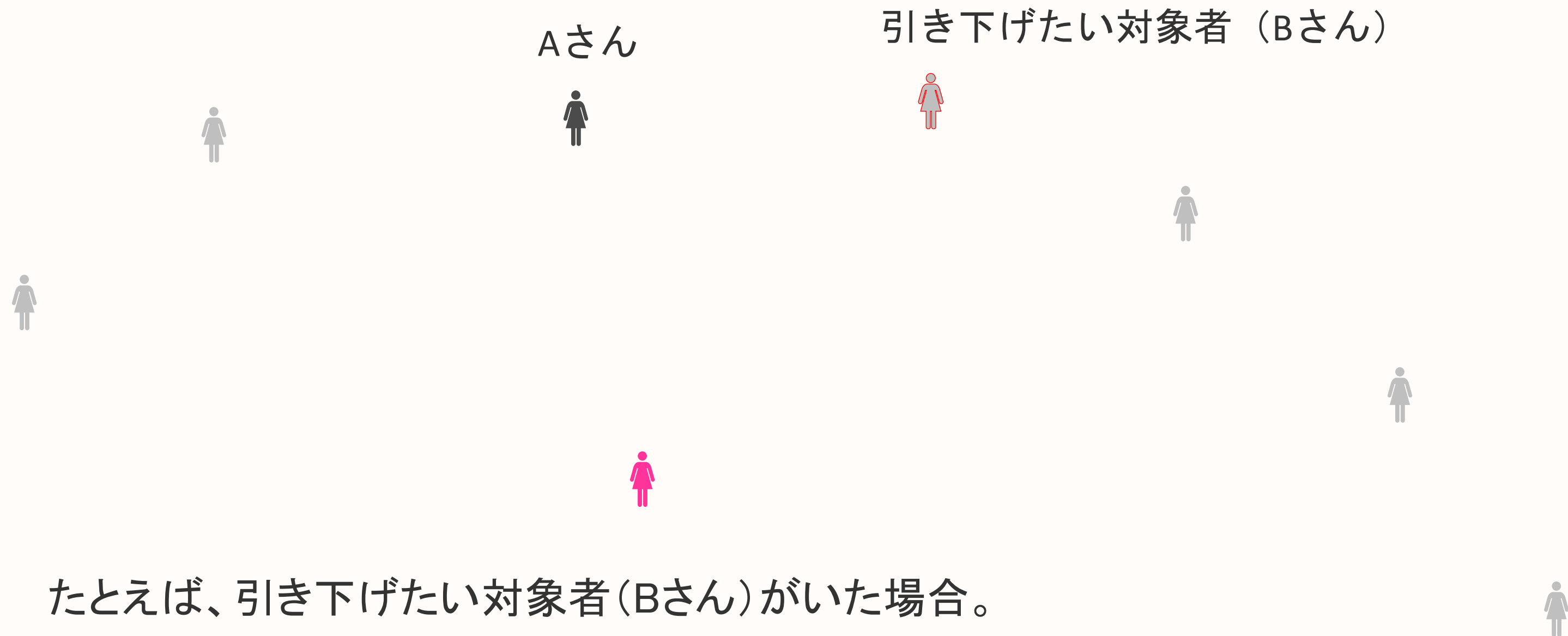
つまり、同じひとりの人に対して、
「マイナスの評価」と「プラスの評価」を持つことになるわけですが、
これがなぜかというと。



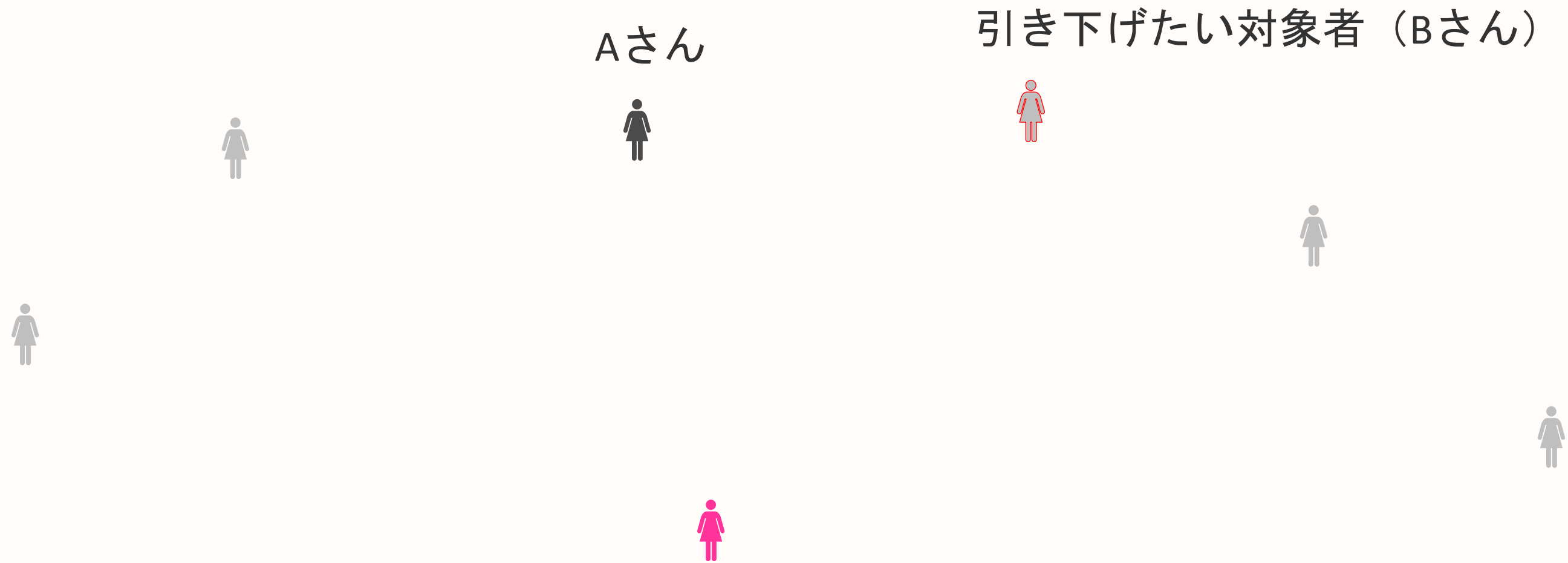
「構造」とその「結果」の図解 7



「構造」とその「結果」の図解 8-1



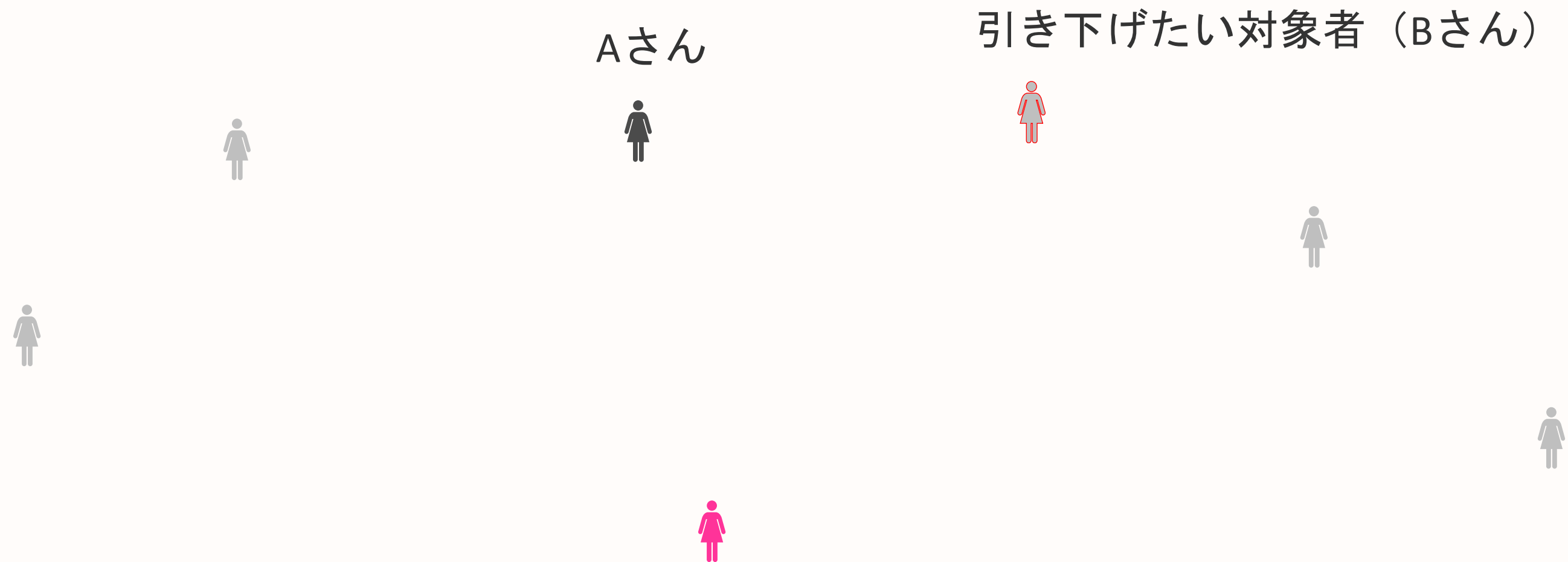
「構造」とその「結果」の図解 8-2



たとえば、引き下げたい対象者(Bさん)がいた場合。

直接Bさんのことを引き下げることができるのであれば、
直接引き下げればいいのですが。

「構造」とその「結果」の図解 8-3

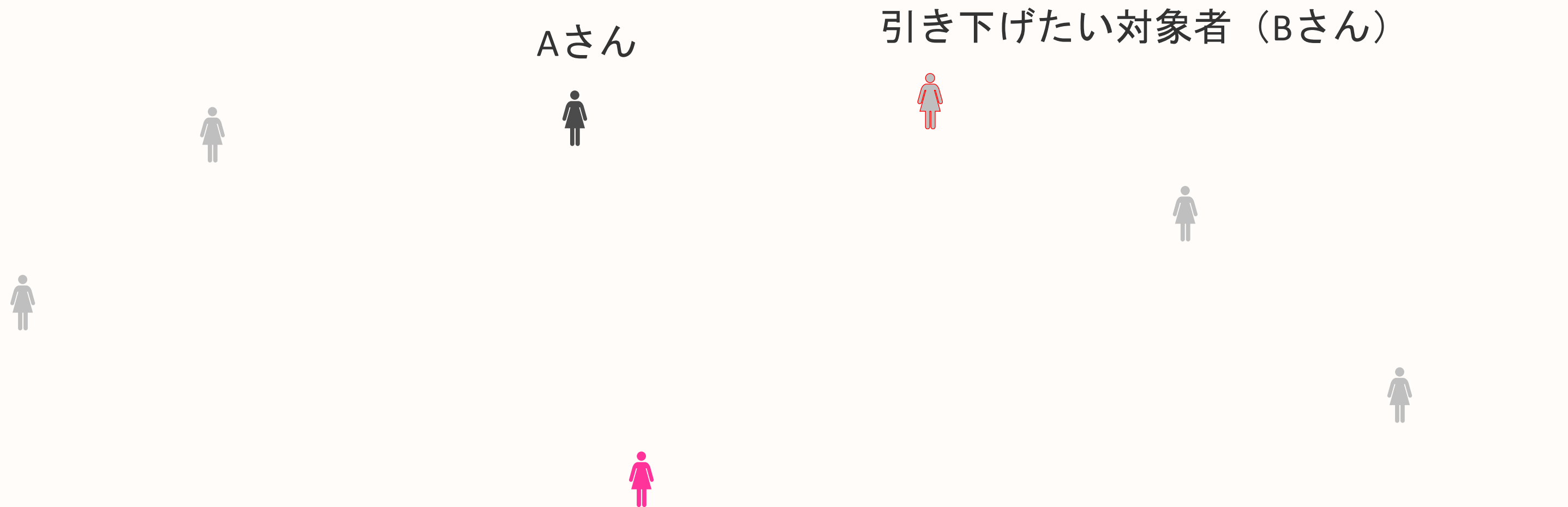


たとえば、引き下げたい対象者(Bさん)がいた場合。

直接Bさんのことを引き下げることができるのであれば、
直接引き下げればいいのですが。

立場やタイミングによっては、直接Bさんを引き下げることができないことも。

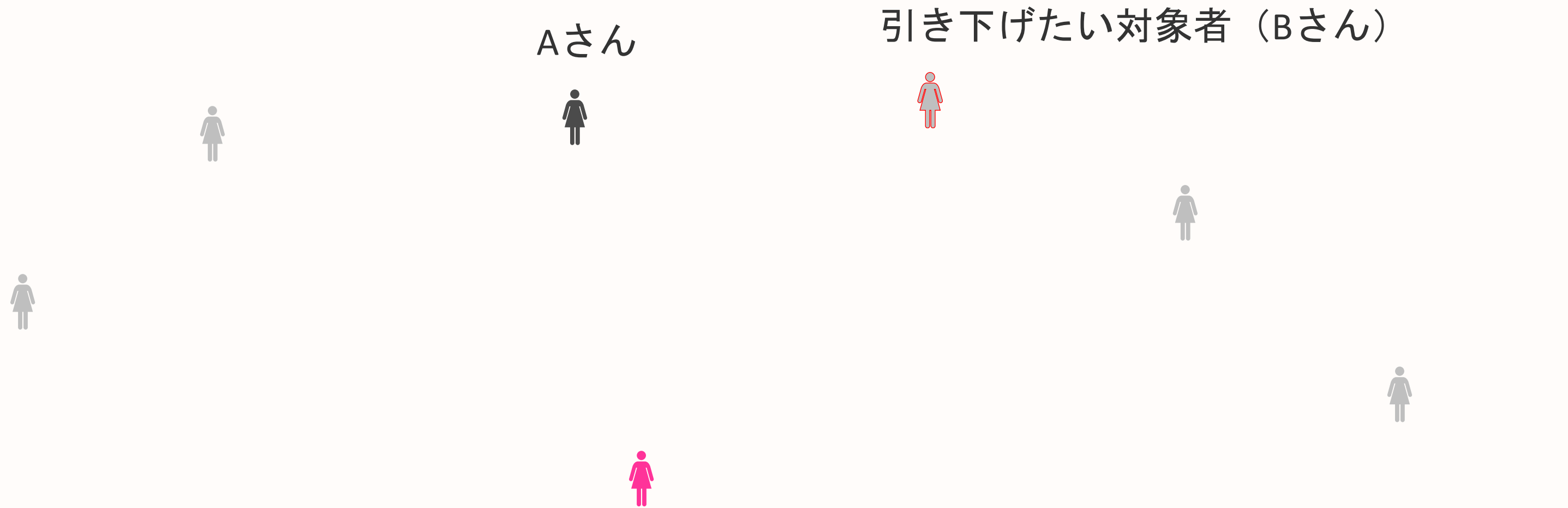
「構造」とその「結果」の図解 9 - 1



そんなとき、この、引き下げたい対象者(Bさん)を引き下げるために、
「Aさんは素敵なのに、Bさんはサイアク」と言える状況が作れば便利でしょ♪



「構造」とその「結果」の図解 9 - 2



そんなとき、この、引き下げたい対象者(Bさん)を引き下げるために、
「Aさんは素敵なのに、Bさんはサイアク」と言える状況が作れば便利でしょ♪

というわけで、さっきまで「マイナスの評価」を下していた相手であるAさんに対して、
突然、「プラスの評価」を下しはじめる、ということをしったりします。

「構造」とその「結果」の図解 9 - 3

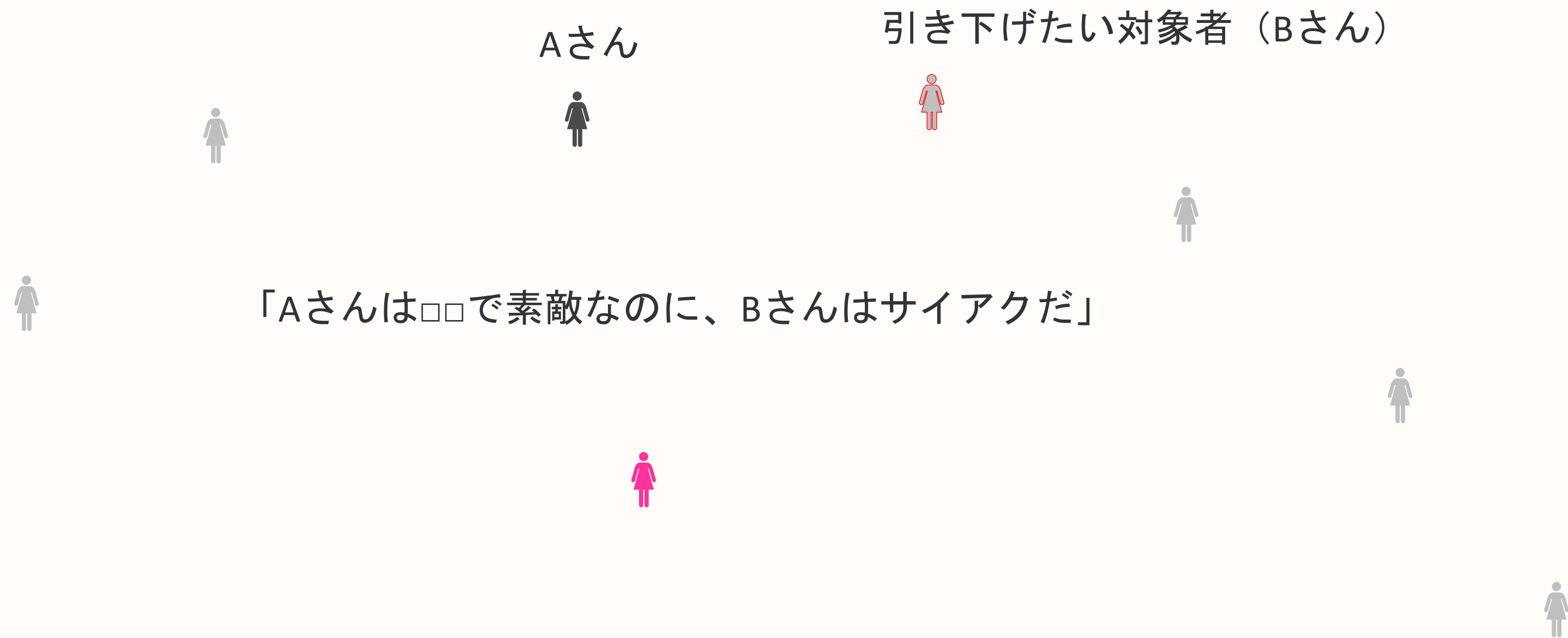


そんなとき、この、引き下げたい対象者(Bさん)を引き下げるために、
「Aさんは素敵なのに、Bさんはサイアク」と言える状況が作れば便利でしょ♪

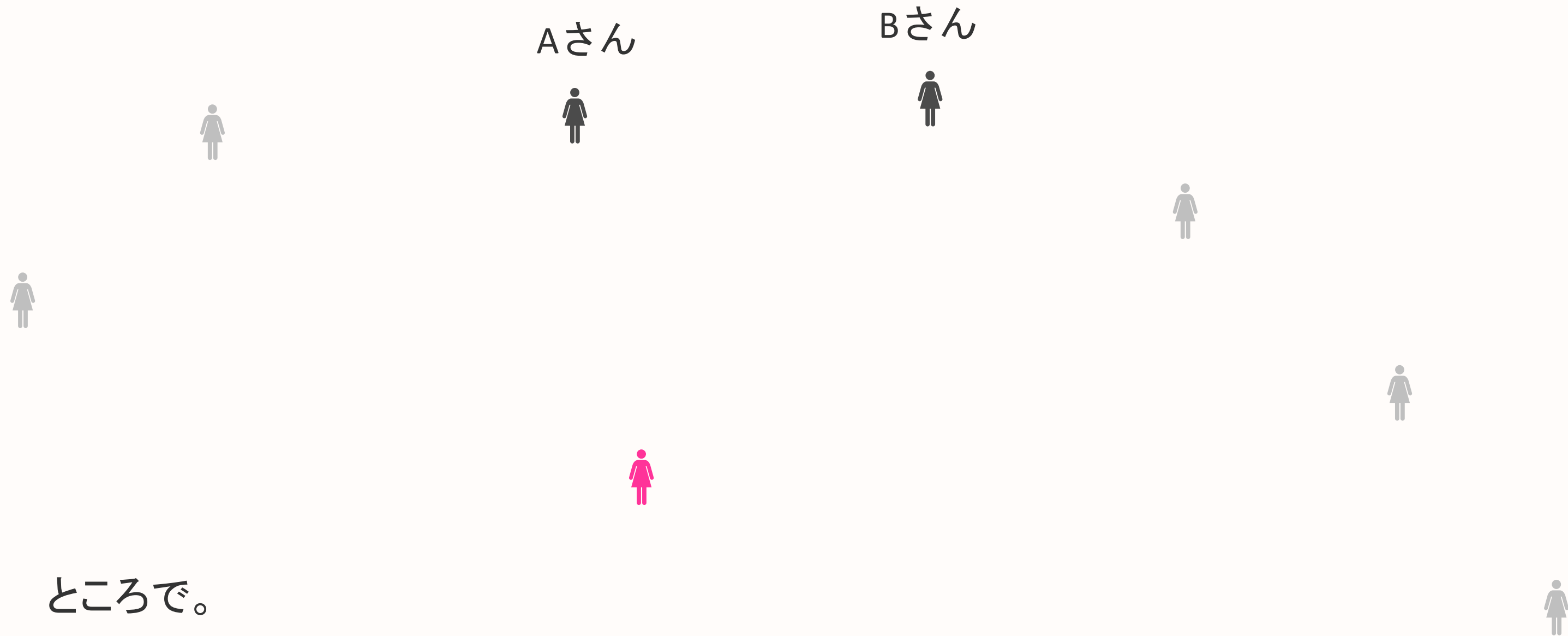
というわけで、さっきまで「マイナスの評価」を下していた相手であるAさんに対して、
突然、「プラスの評価」を下しはじめる、ということをしったりします。

もちろん、Aさんを使ってBさんを引き下げるためにね^^

「構造」とその「結果」の図解 10



「構造」とその「結果」の図解 11

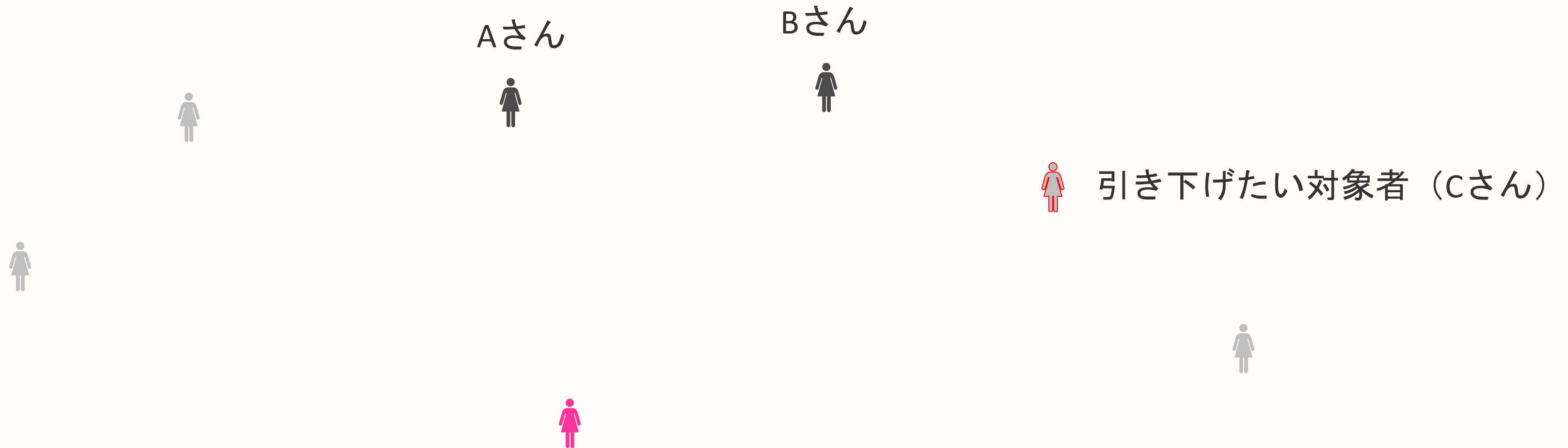


ところで。

人の目的は、「自分が優れた存在」だとアピールするために、
自分以外の人のことを「引き下げること」、「悪く言うこと」にあります。

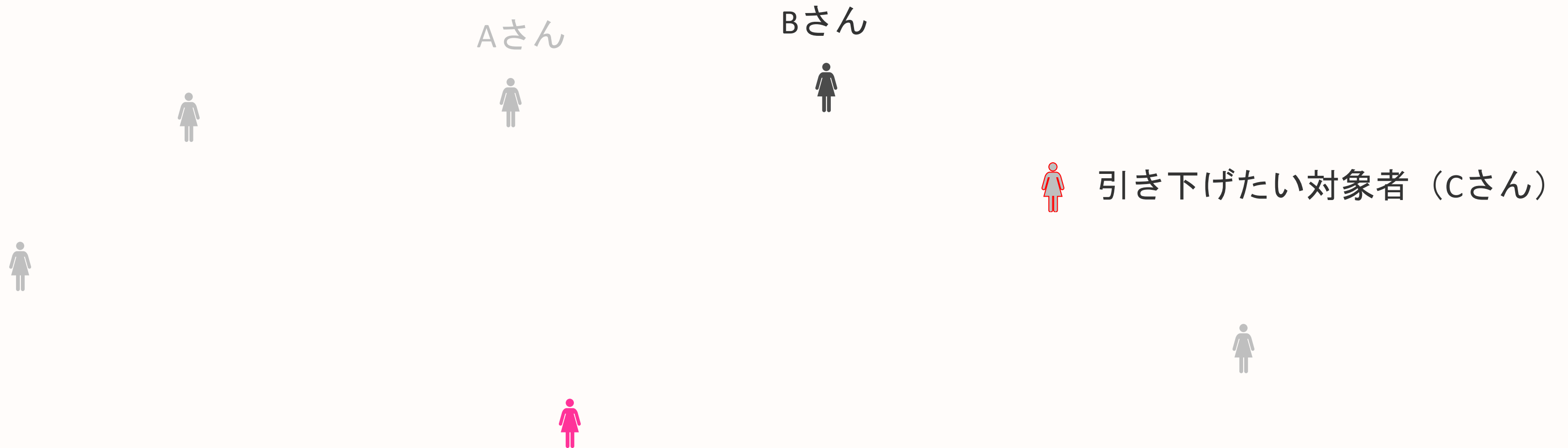
そして、「引き下げる対象」、「悪く言う対象」は誰でもいい。

「構造」とその「結果」の図解 12



そうなる、今まで出てきたAさん、Bさんとは別の人である「Cさん」を引き下げようとする機会も出てきます。

「構造」とその「結果」の図解 13

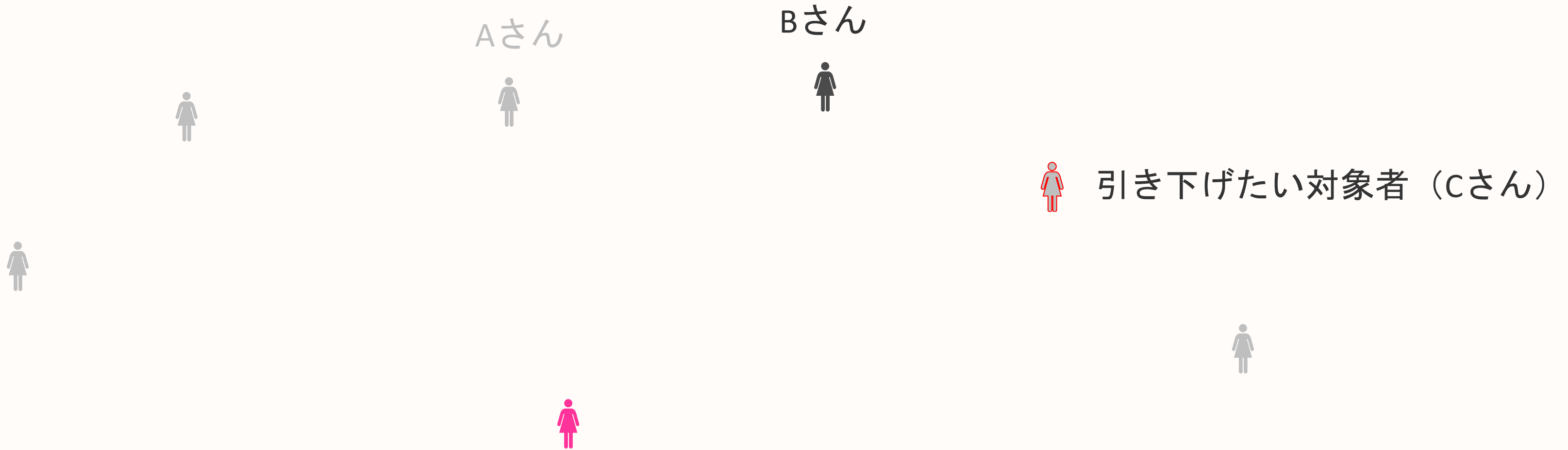


ところで、Cさんを引き下げようとするときに、
Aさんを引き合いに出せないこともあります。

そのときに、Cさんを引き下げるためにBさんを引き合いに出せるとしたら。

その人は、Cさんを引き下げるために、Bさんを引き合いに出すことになります。

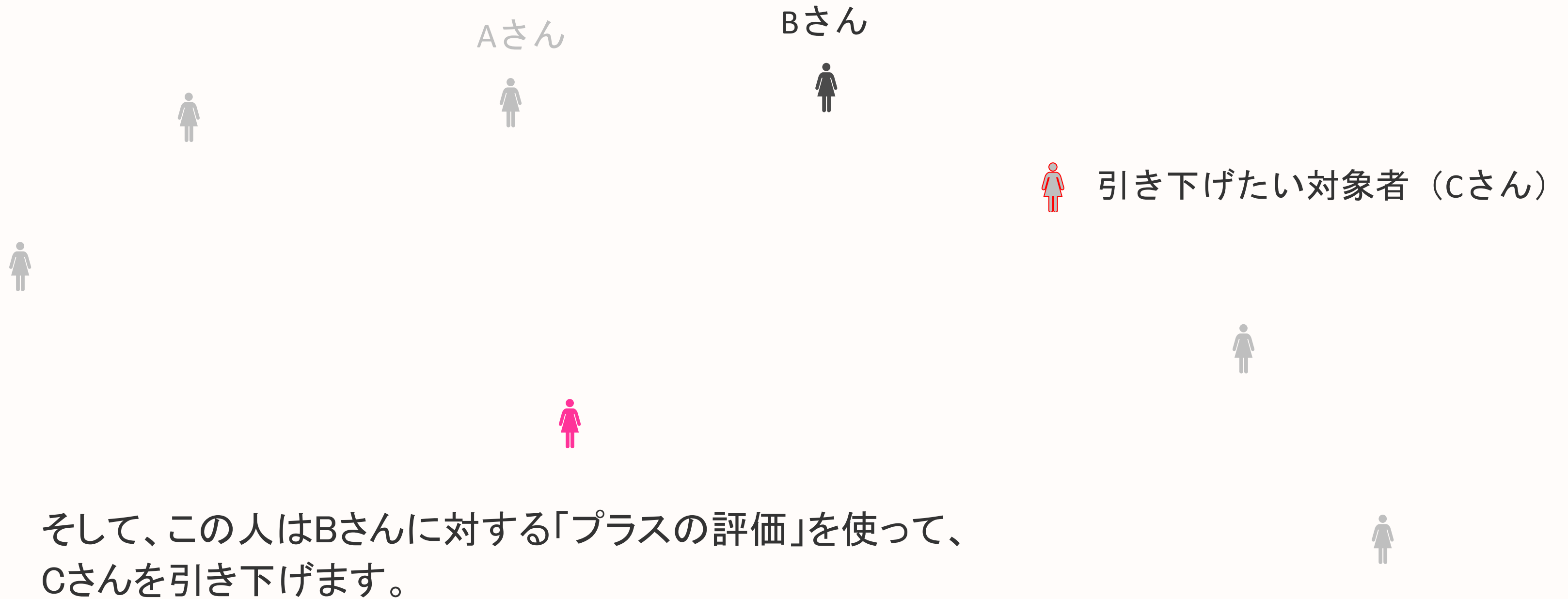
「構造」とその「結果」の図解 14



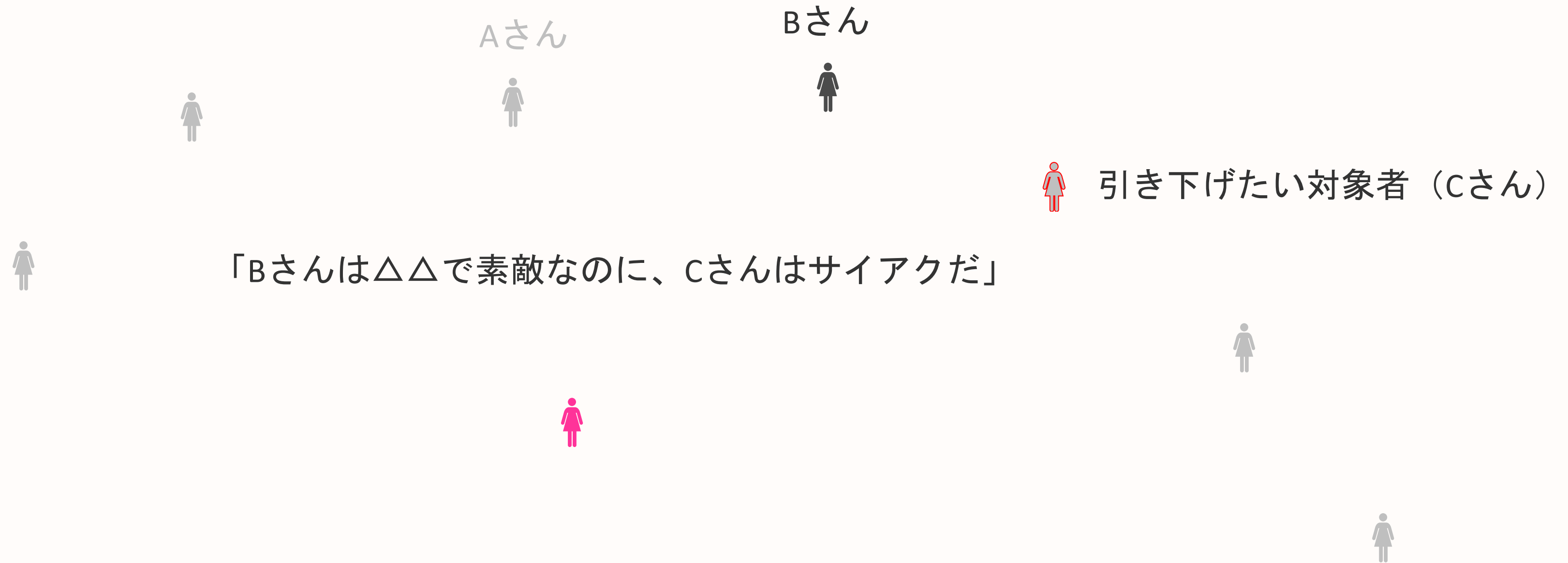
Bさんを引き合いに出して、Cさんを引き下げるためには、
Bさんに対して「プラスの評価」を下す必要がある。

その結果、さっきまで「マイナスの評価」を下していた相手であるBさんに対して、Cさんを引き下げること为目的に、突然、「プラスの評価」を下しはじめる、ということをしてたりします。

「構造」とその「結果」の図解 15



「構造」とその「結果」の図解 16



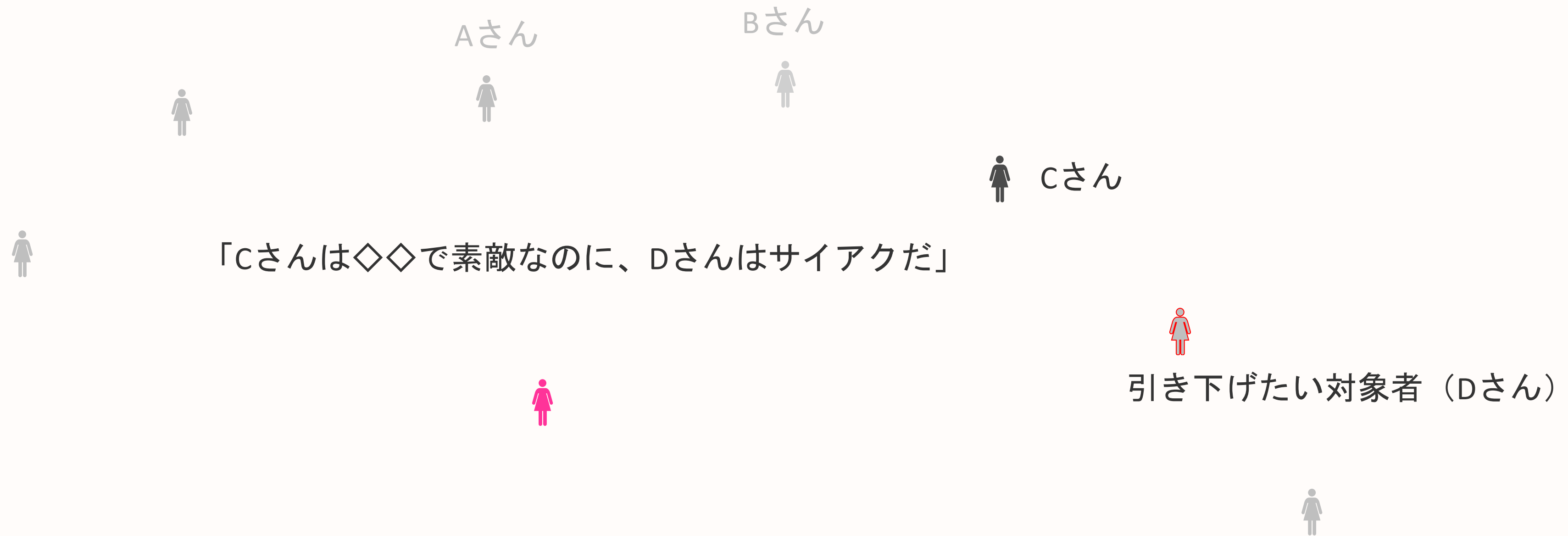
「構造」とその「結果」の図解 17



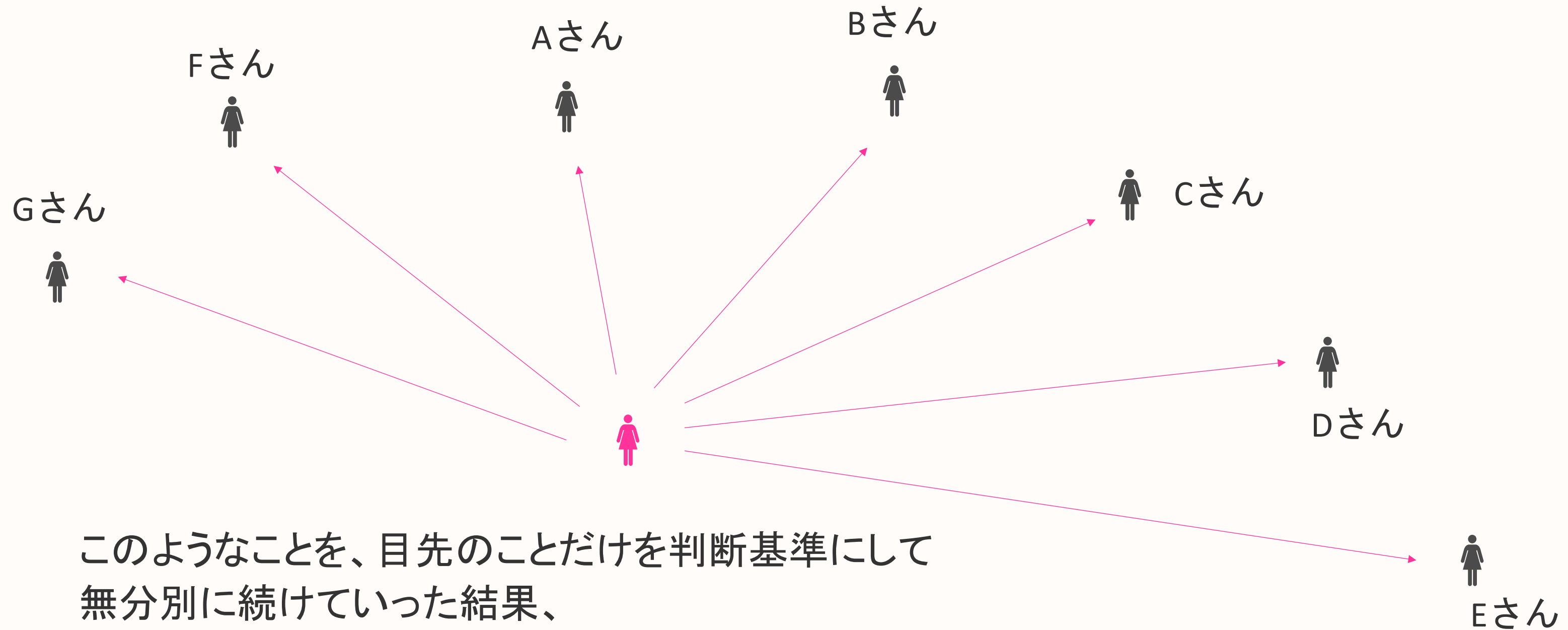
ちなみに、この構造は自分のまわりのすべての人に対して適用されますので、
また別の人(Dさん)を引き下げるために、
Cさんに「プラスの評価」を下すということも起こります。



「構造」とその「結果」の図解 18

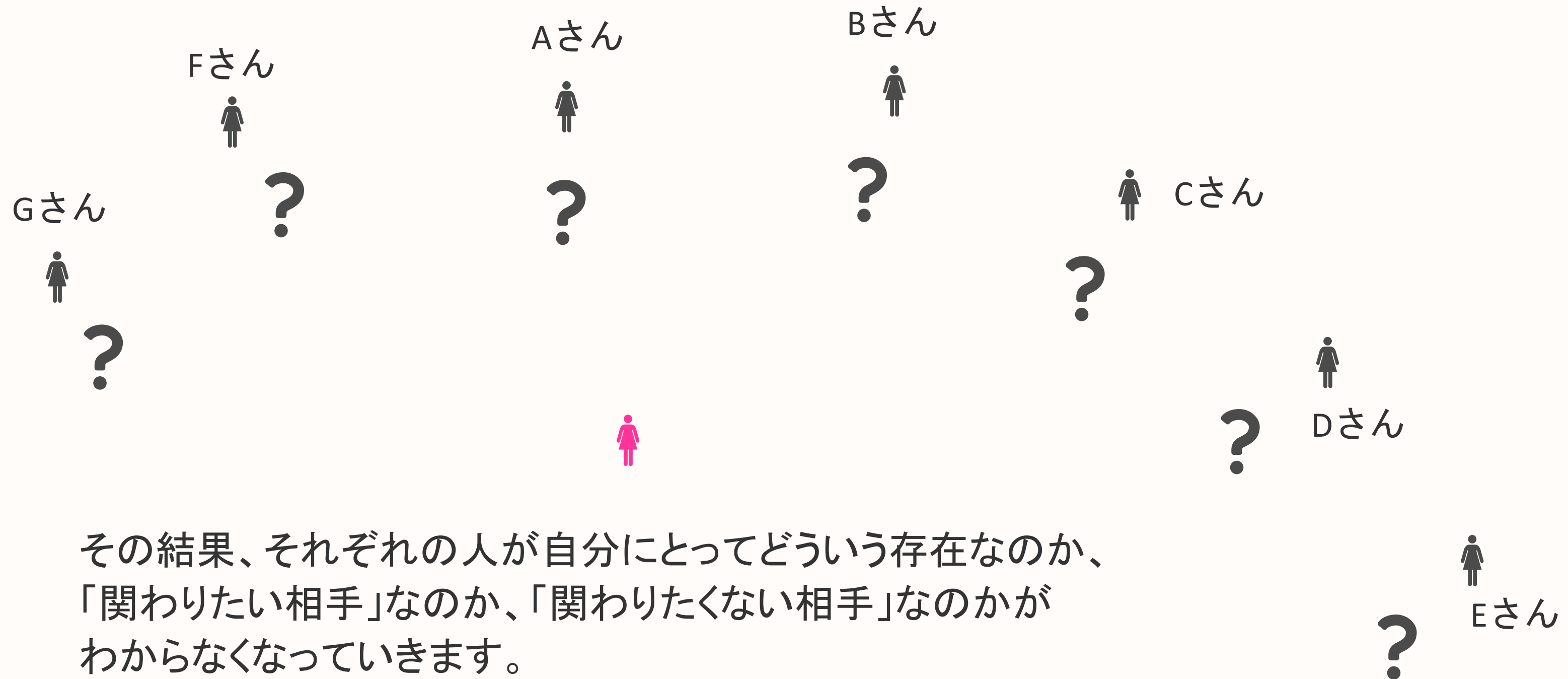


「構造」とその「結果」の図解 19



このようなことを、目先のことだけを判断基準にして
無分別に続けていった結果、
人は、自分のまわりにいる人たち全員に対して
「マイナスの評価」と「プラスの評価」を持つことになります。

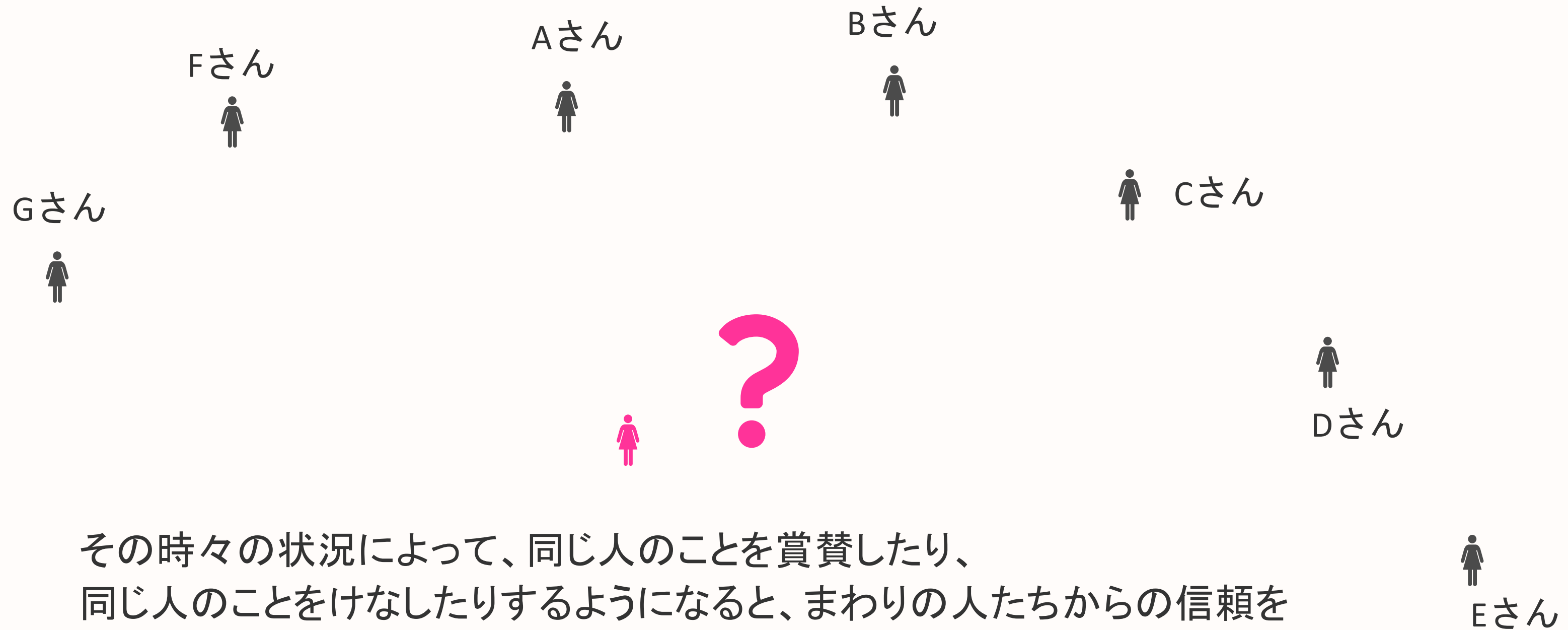
「構造」とその「結果」の図解 20



その結果、それぞれの人が自分にとってどういう存在なのか、
「関わりたい相手」なのか、「関わりたくない相手」なのか
わからなくなっていくます。

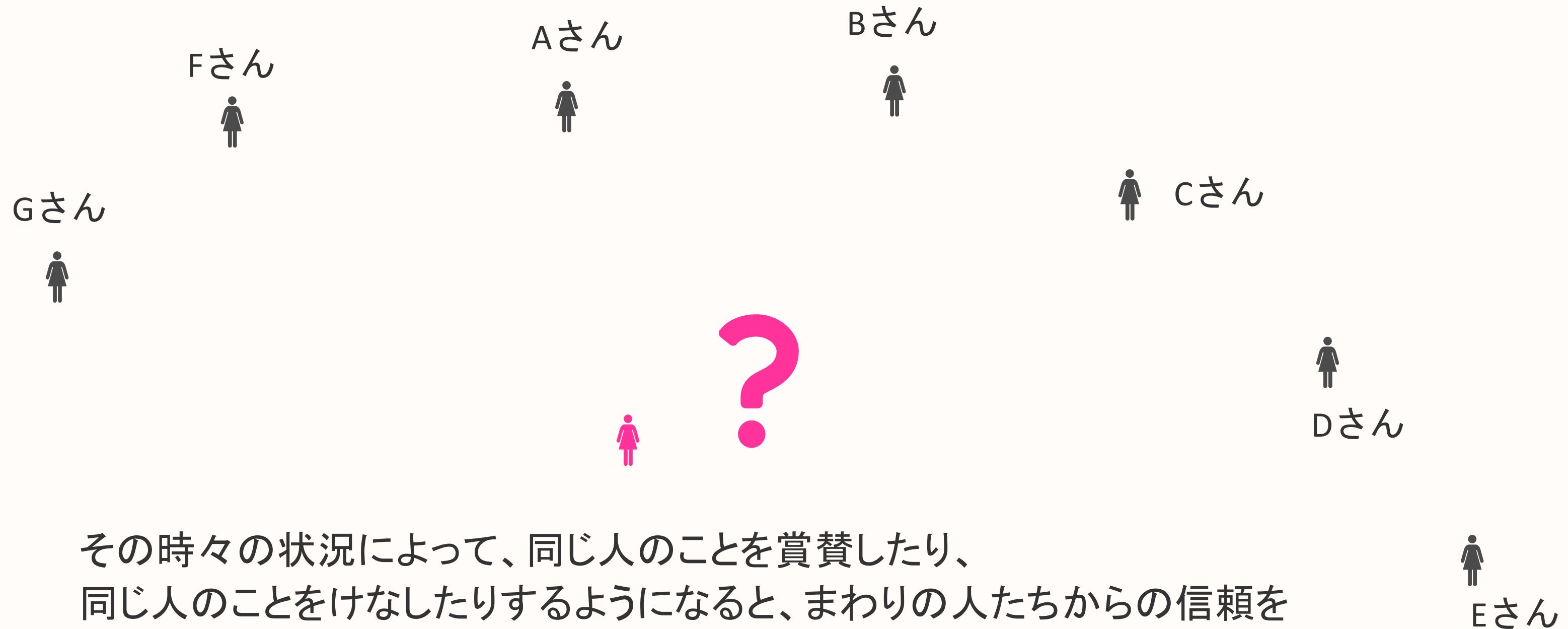
その結果、その時々状況によって、同じ人のことを賞賛したり、
同じ人のことをけなしたりし始めます。

「構造」とその「結果」の図解 21 - 1



その時々状況によって、同じ人のことを賞賛したり、
同じ人のことをけなしたりするようになると、まわりの人たちからの信頼を
失うことにもなっていますが、それよりもまずいいことがあります。

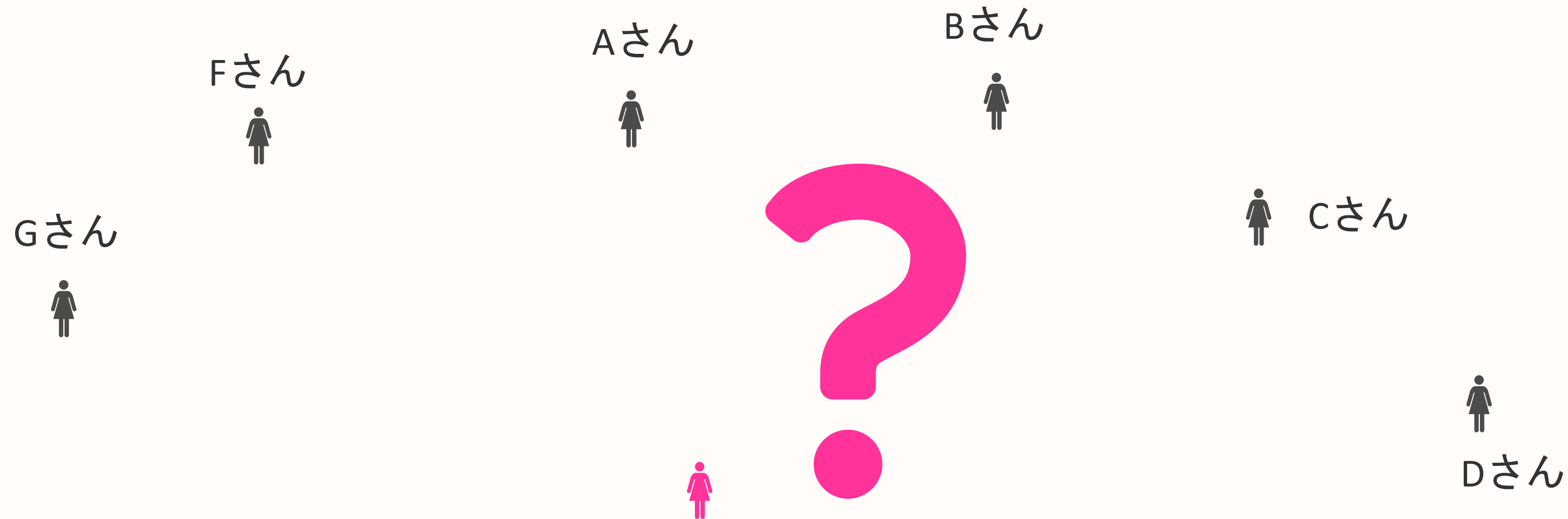
「構造」とその「結果」の図解 21 - 2



その時々状況によって、同じ人のことを賞賛したり、
同じ人のことをけなしたりするようになると、まわりの人たちからの信頼を
失うことにもなっていますが、それよりもまずいことがあります。

それが、「**自分で自分のことがわからなくなってしまうこと**」です。

「構造」とその「結果」の図解 22



このような状況から、「自分に対する不確かさ」を強めていく人はとても多い。

そして、「自分に対する不確かさ」を抱えていることが原因で、様々な側面で、そもそも抱える必要のないトラブルを抱えることになっている人たちもとても多いのです。

Eさん

この状況から抜け出すために

では、この状況から抜け出すためには
どうすればいいのか？

この状況から抜け出すために有効なことは、
他のものごとに対するときと同じで、
「そもそものはじまり」に立ち返ることです。

そもそものはじまりは

今回の話であれば、そもそものはじまりは、
「自分が優れた存在である」ことをアピール
するために、たまたま自分の近くにいたAさん
に対して、
手っ取り早く「マイナスの評価」を下した
ことでした。

Aさんに「マイナスの評価」を下した理由

そして、Aさんに対して「マイナスの評価」を下した理由は、
「Aさんに悪いところがあったから」
ではありません。

すべては「アピール」のため

Aさんに対して「マイナスの評価」を下した理由は、誰かと比較して、「自分の方が優れている」とアピールすることで、死刑から免れたいと考えたことにあります。

世の中に蔓延する『誤』認識

世の中に蔓延する『誤』認識

ところでここで、世の中全般に蔓延している『誤』認識についてお話をしたいのですが、

世の中全般の認識として、

「誰かのことを引き下げることができれば、
自分のポジションや価値を上げることができる」

というものがあります。

幼稚園児の子供でも

この認識が蔓延していることは、
たとえば幼稚園児のような小さなときから、
自分以外の誰か（Ｙちゃん）が褒められている光景
を見たときに

「でも、Ｙちゃんは××だもん！」というように、
そのＹちゃんのことを引き下げようとする
子供たちがたくさんいることから見て取れます。

よくよく考えてみたいこと

いづれにしても、世の中全般の認識として、

「誰かのことを引き下げることができれば、
自分のポジションや価値を上げることができる」

というものがあります。

しかし、これは本当なのでしょうか？

事実を言えば

事実を言えば、

誰かのことを引き下げても、
自分のポジションも価値も上がりません。

次なる疑問

そうであれば、

- ・ 「死刑を免れるために」、
- ・ 誰かと比較して「自分の方が優れている」とアピールするために、
- ・ 誰かに対して「マイナスの評価」を下す

ということをする意味はあるのでしょうか？

一條の所感

ましてや、そういうことをすることによって、

- ・ 自分で自分のことがわからなくなったり、
- ・ まわりの人たちからの信頼を失うことになる
としたら、

そういうことをする意味は、
ないのではないかと思うのです^^

その理由がわかったら

いづれにしても、誰かのことを引き下げても、
自分のポジションも価値も上がりません。

その一方で、人は、自分のまわりの人たちに対して、
必ずなんらかの「マイナスの評価」を下しています。

でも、自分がなぜそのようなことをしているのか、
その理由がわかったら。

理解できることもあるのかも

誰かに対して「マイナスの評価」を下すことには、
なんの意味もないと理解しはじめる人もいる
のかも^^

とはいえ、すべての人に関わる必要はないわけで

もちろん、「生理的に受け付けられない」などの理由で、

- ・ 「自分に関われないな」と思う人
- ・ 関わりたくない人

がいることは当然のことです。

※たとえば僕の場合には、基本的にタバコを吸う人とは関われないなと思うし、
実際、関わろうとしない、という感じになっています。

立ち止まるべき瞬間は

その一方で、

特定の誰かに対して、あるときはものすごく
「プラスの評価」をしていたのにも関わらず、

同じ人に対して、突然、「マイナスの評価」を
し始めたときとか。

立ち止まるべき瞬間は（続き）

その逆に、

特定の誰かに対して、あるときはものすごく
「マイナスの評価」をしていたのにも関わらず、

同じ人に対して、突然、「プラスの評価」を
し始めたときとか。

自分の中の動機はなにか

自分がそういうことをし始めた気づいたときには、
自分の中の動機を確認してみると
なにかがわかるかもしれません^^

事実としては

「関わりたい人」には関わればいいし、

「関わりたくない人」には関わらなければいい。

それだけのことですが、誰に関わるか、関わらないかという判断を、今までお話してきたような、

「誰かを引き下げることに役に立つかどうか」という尺度から下している人はものすごく多いのです。

理に適っていない行為

その結果、その時々状況によって、
同じ人のことを賞賛したり、
同じ人のことをけなしたりするようになると、

- ・ まわりの人たちからの信頼を失ったり、
- ・ 自分で自分のことがわからなくなったりする。

これはとてももったいないことに感じますし、
理に適っていないことだとも思います。

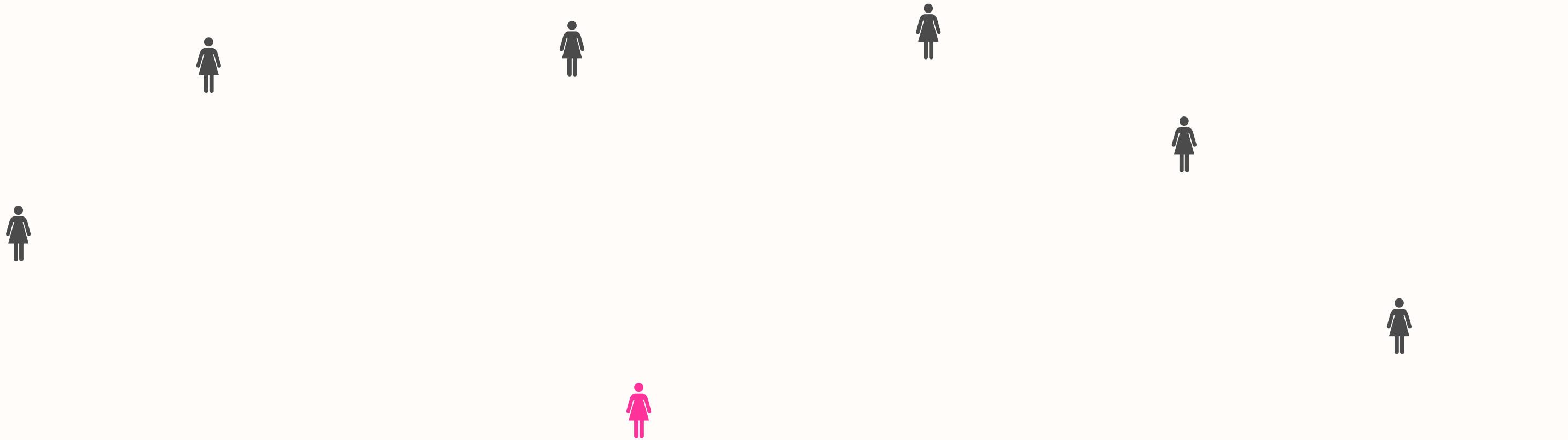
「事実」と「認識」のズレ

いずれにしても、**事実として、**
誰かのことを引き下げることによって、
自分のポジションや価値を上げることはできません。

その一方で、世の中全般としては、「誰かのことを
引き下げることができれば、自分のポジションや価値
を上げることができる」という認識があります。

ここに「事実」と「認識」のズレがあるのです。

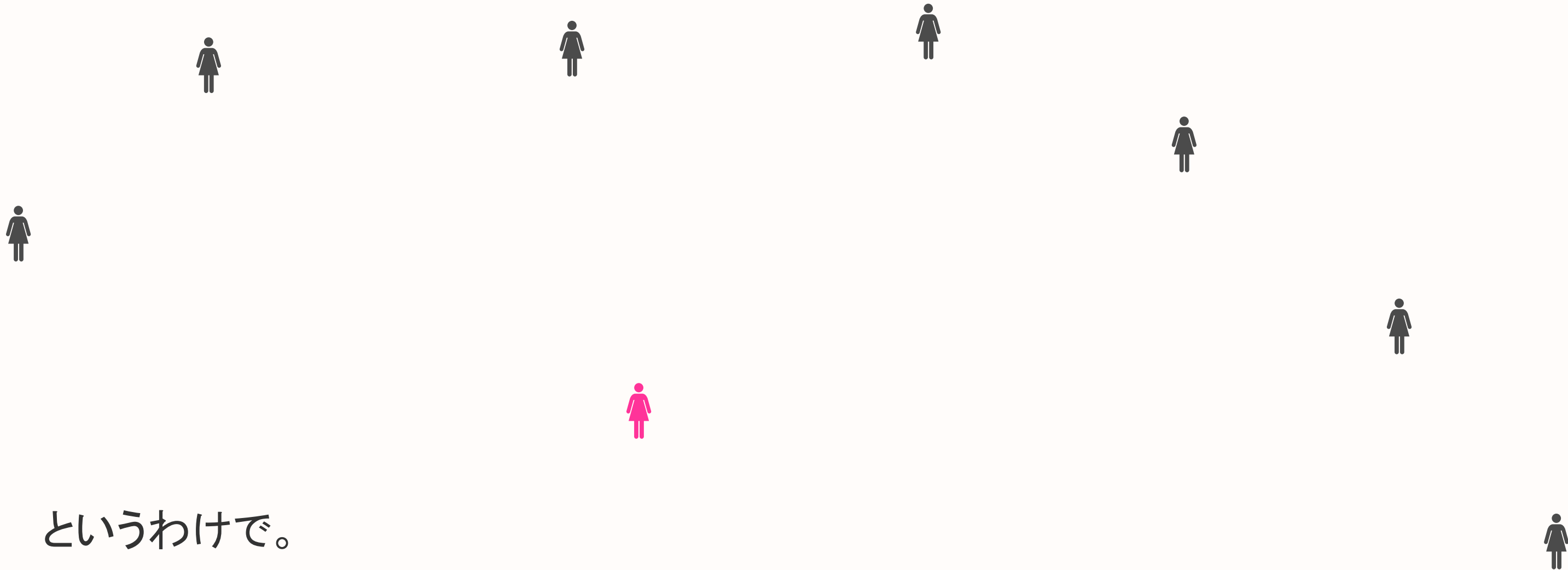
スムーズに、ひっかかりのない人生を送るために



こういう話も、いつもお伝えしている「世の中の構造」についてのお話のひとつですが、理解されていないことも多い話です。

その一方で、こういう構造の理解に基づいて、自分のまわりの人たちに対して、「いい」とか「悪い」とか、「好き」とか「きらい」とかいう判断を下さなくても済むようになれば、スムーズに、ひっかかりのない人生を送れるようになる人も多いと思います。

立ち止まることが有効かも

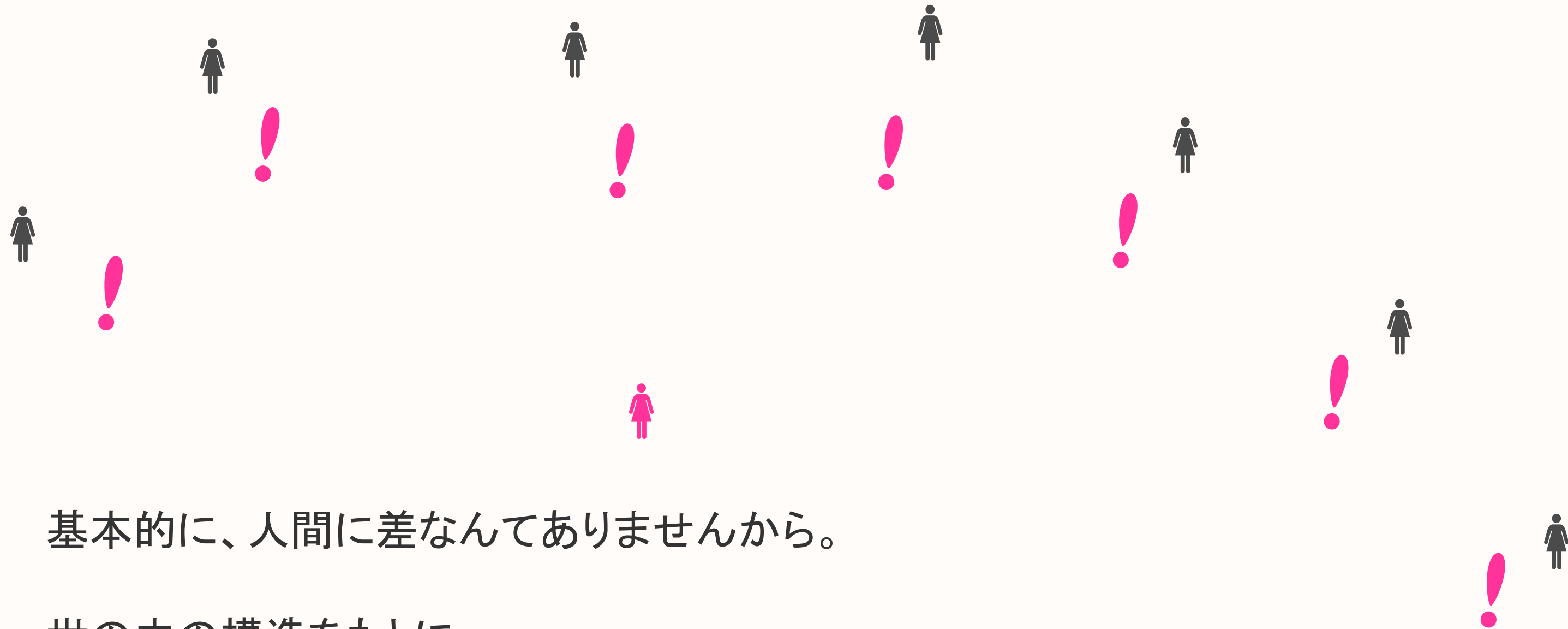


というわけで。

誰かのことを悪く言いたくなったときには、いったん立ち止まって、
この構造に照らし合わせてみるといいかもしれませんし^^

もちろん、誰かのことを賞賛したくなったときにも立ち止まるといいかもしれません^^

まずは「人間」を理解して



基本的に、人間に差なんてありませんから。

世の中の構造をもとに、
まわりの人たちのことを「人間」という観点から紐解いて。

そこから自分のことを紐解いて。

それから「自分」を理解する



自分に対する理解を深めながら。

「自分に対する不確かさ」を取り除きながら。

こういう「構造についての理解」を、
ご自身がしあわせな人生を送るための一助にしていただければと思います^^

そんな感じだ〜^^

もうトシだって言っちゃって、まだまだ先はあるんだからさ〜w

すっきりお仕事して、すっきり暮らせるようにしていけたらいいよね★

というわけで。

なんかあったらいつでも言って〜♪(≧▽≦)♪

